

2019年7月16日  
日本銀行金融機構局  
金融高度化センター

## 「第2回ガバナンス・ワークショップ」挨拶

日本銀行金融機構局金融高度化センター長の菅野でございます。

本日は、第2回ガバナンス・ワークショップに、全国から大変多くの皆様に、ご参加を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、金融機関経営を取り巻く環境が厳しさを増すなか、金融機関はそれぞれに「持続可能なビジネスモデル」を構築し、また、そのためにも、ガバナンスの高度化を図っていく必要性が高まっています。

3月に開催しました、第1回ガバナンス・ワークショップでは、社外取締役を含む取締役会が、「監督」の枠組みとして、「リスクアペタイト・フレームワーク」を構築する意義や、今後の課題などについて、議論をいたしました。

本日、第2回ガバナンス・ワークショップでは、「監督」の枠組みが有効に機能しているかどうかを検証する「内部監査」に焦点を当てます。

内部監査は、言うまでもなく、ガバナンスの重要な構成要素です。

ガバナンス改革の進展とともに、内部監査のガバナンス上の位置付けをより明確にする必要があるとの考え方が浸透しつつあります。

今や、内部監査は、取締役会・監査委員会あるいは監査役会のもとで、独立にして客観的な立場に立ち、リスクベースかつフォワード・ルッキングな視点から、経営全体を点検し、規律付けや改善に向けた提言を行うことが求められるようになってきました。最新の金融行政方針でも、内部監査に関して、規程・マニュアルなどの遵守状況を事後的にチェックするだけの「準拠性監査」から脱却し、「経営に資する監査」への転換を図るよう態勢を整備して、その使命を果たすことが求められています。

今回のワークショップでは、「経営に資する監査」とは何か、具体的にどのような取り組みが求められているのかを考えるため、取締役監査委員、内部監査部門長のほか、監督当局、内外の監査実務に詳しい専門家をお招きし、講演、対談、パネル・ディスカッションを行います。

本日も、多くの講師、パネリストの皆様にお集まりいただきました。

講師、パネリストの皆様には、ご多忙なか、本ワークショップにお集まりいただき、貴重な経験談、専門的な知見をお聞かせくださいますことに、心より感謝申し上げます。

さて、本日のワークショップのご講演と対談につきましては、前回に引き続き、新たな試みとして、ビデオ収録を行い、後日、オンデマンドでのWEB配信を行う予定です。

私どもとしましては、今回、遠距離のために参加できなかった方々、日程の都合がつかず参加できなかった方々はもちろん、本日、ご参加くださいました皆様を含め、取引先金融機関の皆様に、幅広くご視聴いただきたいと思いますと考えております。

インターネットに接続できるパソコン、スマートフォンがあれば、いつでも、どこでも、視聴が可能です。職場単位で視聴会を催したり、時間の余裕があるときに、個別にご視聴をいただくなど、積極的にご活用ください。

また、WEB配信の今後の継続、改善に向けて、ご視聴後のアンケートにも是非ご協力をお願いいたします。

それでは、本日のワークショップが、皆様の日々のお取り組みに役立つものとなれば幸いです。

どうぞ、最後まで、よろしく願いいたします。

以 上